

## 公益大と新庄北・新庄南2高校協定 グローカル教育充実へ連携

26年「公立化」「統合新高校」学びの広がり期待

酒田市の東北公益文科大学（神田直弥学長）と、いずれも新庄市の新庄北高校（石山宣浩校長）、新庄南高校（森美千子校長）は25日、高大連携に関する協定と覚書を交わした。地域課題を国際的な視点で解決に導く「グローバル教育」の充実に向けて交流と連携を強化していくもので、公益大が最上地域の高校と連携協定を締結するのは初めて。学生・生徒双方にとってフィールドワークの広がりが期待される。

最上地区の高校と初協定

新庄北、新庄南は統合して2026年4月、新たに「新庄志誠館高校」としてスタート。公益大では同時期の公立化と機能強化を目指して現在、作業が進められている。

これまででも新庄南が実施する模擬講義「ジョイントセミナー」で公益大教員が講師を務めるなど連携・交流があり今回、これらをより強力に推進するために協定を結んだ。

協定書によると、公益大は両校に対して▽探究型学習を中心とした教育課程の研究・開発、実践に対する助言▽グループワークやディスカッション、プロジェクト型学習などを実施する際の教員派遣▽グローバル人材育成に向けた学習プログラムへの協力一などで支援。両校は公益大が実施する公開講座や国際理解教育イベントへの生徒・教員の派遣などで協力する。

締結式は公益大学内で行われ、神田学長、石山、森両校長が協定書に署名し交わした。神田学長は「地域、本県に対してどのような貢献ができるのか、これまで以上に考えていかなければいけない。公立大と新高校が共に手を取り合って教育を進めることでシナジー効果（相乗効果）が期待できる」とあいさつした。

石山校長は「地域を軸にした探究学習に取り組んでいる。公益の視点で助言や指導を頂くことで特色ある教育活動を一層推進することができ、学びの広がりに期待」、森校長は「学生と生徒が交流するなどさまざまな教育プログラムを一緒に考えることができる、またとない機会。連携を通して魅力ある学校にしていきたい」とそれぞれ述べた。

具体的な活動は今後、3者で検討する方針で、グローバル教育の実践を通して庄内・最上両地域の持続可能な発展に貢献する。



協定書・覚書を交わす（左から）石山校長、神田学長、森校長＝公益大